

# ガイドラインに要れるべき要件

---

デジタルアーカイブの連携に関する実務者協議会WG  
2016年10月11日(火)

福島 幸宏(京都府立図書館)

---

---

---

## 本日の構成

---

- 組み立ての整理と全体構成
- スリムモデル
- ノーマルモデル
- 評価とインセンティブ

# 組み立ての整理と全体構成

- 課題→「ガイドラインに要れるべき要件」
  - ガイドライン全体の構成を念頭に置いて整理する必要
- 発想の前提
  - 多様な主体が様々な条件や文脈でデジタル・アーカイブを構築
  - 貴重なもの・巨費を投じながら「消滅」したデジタルアーカイブがあまりにも多い
  - **持続可能性** をキーワードに考える
  - ただし、現状から見て「高度」な要求だと対応出来ず構築をかえって阻害
  - 「これだけは」という要件と「ここまでであると嬉しい」というライン を明示
- 構成の私案
  - スリムモデル：クリアしてはじめてデジタルアーカイブ／あとはなんとかします
  - ノーマルモデル：ここまでであると嬉しい／より面白いことしましょう
  - 評価とインセンティブ：機関・事業の評価にデジタルアーカイブの構築を
  - 参考：ベストエフォート／モデルの例示

# スリムモデルの要件

- 利用規約の明示
  - 「クリエイティブコモンズライセンス」か「政府標準利用規約」に則ったもの
  - 著作権と所有権についての正しい理解が前提
- 機械可読性の担保
  - 総務省の「オープンデータ戦略推進」関係ドキュメントに則る
  - メタデータ記述の書式を強調すること
- 環境に依存しないデータ移行性の担保
- アクセシビリティの確保
  - 「みんなの公共サイト運用ガイドライン」に則る

---

---

# ノーマルモデルの要件

---

- スリムモデルを満たした上で
- メタデータ記述の精度向上
  - 画像ファイル自体への記述
  - 更新履歴の明示
- より一層のデータ流通性の確保
  - API（アプリケーションプログラミングインタフェース）の提供
  - DOI（デジタルオブジェクト識別子）の付与
- 利活用コミュニティ形成の活動
  - データソン／NDLの諸活動
  - 自由な活動を前提／レスポンスをもらえる仕組み・行動

# 評価とインセンティブ

- ガイドラインへの合致度で評価
  - インフラ構築の発想／利活用の評価は慎重に考慮
  - 高く評価できる事例をピックアップする仕組み
- データベース系の科研は「公開」まで？→「持続性の担保」を要件に
  - ダークアーカイブの条件付き容認
- 機関・事業の評価に「どのような「デジタルアーカイブ」を構築したか」を
  - 新たな評価軸をつくることにより機関・事業側にもメリットを
  - 主要事業としての認識促進
- インセンティブ
  - 高く評価できる事例への手当
  - デジタルアーカイブたり得ないシステムへの公的資金投入の可否

# 補足

- 「デジタルアーカイブ」の分解
  - 本体：メタデータと画像ファイルの集合体 + API提供
  - 表皮：多様な利用方法・見せ方を提供
  - 触手：表皮を使って本体を売り込む活動
  - プラットフォーム・ショーウィンドー・フォーラム
- ベストエフォート／モデル選択の考え方
  - 海外（アジア）事例を必ず
  - 海外の日本資料に関する活動
  - リソースがない中での構築事例